

## バラ五輪活躍誓う

柔道の広瀬選手壮行会



壮行会で花束を受け取る広瀬選手(左)と豊橋市の桜丘学園柔道場

二十九日開幕するロンドンオリンピックの柔道六十六級に出場する西尾市出身の広瀬選手を、市町村区別の壮行会が、十八日、豊橋市南生川

あつた。柔道場では、こをしているNPO法人「愛知国際柔道自然塾」の廣が、豊橋市立員と学園の中学・高校生ら四十人がエールを送った。

広瀬選手は祝賀降書着て、バラ五輪は三度目の出場。アテネ大会では銀メダルに輝いた。

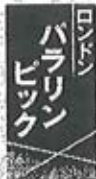
広瀬選手は合同でけいをした後、廣が、柔道部の福井舞子さん(も)豊橋市西辛町から花束を受け取った。

広瀬選手は「降香は不覚じゃない。僕のようには生きなことを見つけ、一生懸命生きてほしい」と呼び掛け、活躍を誓った。

(西田寛亮)

## 持ち出し年間144万円 選手の負担増加

競技環境調査



バラ五輪出場選手をつくる日本パラリンピアンズ協会(河合純一会長)は17日、「第2回パラリンピック選手の競技環境調査」を発表した。選手やスタッフの負担が大きいこと

が、改めて浮き彫りになった。調査は、20日開幕のロンドン大会と、2010年パシフィック冬季大会の代表選手やスタッフを対象、6月8月にアンケートを実施し、計232人(選手138人、スタッフ96人)が答えた。

競技によって差は大きい。自己負担は年平均で144万円程度。08年の前回調査より90万円以上増えた。パラリンピック出場権獲得のための海外遠征が77万円を占めた。また、専任コーチがいる選手は54・5%で、プロと自覚する選手も20・9%。競技化がより進んだことが、負担増につながっていると言えそうだが、

一方、文部科学省所管のナショナルトレーニングセンター(東京都北区)を利用したことがない選手が70・6%を占め、五輪選手との練習環境の差は依然として大きい。また、スタッフはほとんどがボランティアで、競技団体の強化費を中心に活動できているのは11人だけだった。



景色は命をあらわし、小さな星は命を指差す。小さな四つの星は人々の期待を示している。國ができた1949年から使われているよ。